

**製品名: FBP1 (16B16) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe10859**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000, ICC/IF 1:20-1:50, FC 1:100-1:200
分子量	37kDa

**抗原情報**

遺伝子名	FBP1
別名	FBP; FBP1; FBPase 1;
遺伝子 ID	2203.0
SwissProt ID	P09467
免疫原	ヒト FBP1 の合成ペプチド

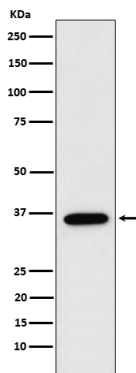
**背景**

二価カチオンの存在下でフルクトース 1,6-ビスリン酸からフルクトース 6-リン酸への加水分解を触媒し、糖新生の律速酵素として作用する。二価カチオンの存在下でフルクトース 1,6-ビスリン酸からフルクトース 6-リン酸への加水分解を触媒し、糖新生の律速酵素として作用する。膵臓β細胞のグルコース感知およびインスリン分泌の調節に役割を果たす。肝臓におけるグリセロール糖新生を調整すると考えられる。食欲および肥満の重要な調節因子であり、栄養過剰後の肝臓におけるタンパク質発現の増加は、循環満腹ホルモンを増加させ、食欲刺激神経ペプチドを減少させることで、体重増加を抑制するフィードバック機構を提供すると考えられる。

## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

## 画像データ



MCF7 細胞溶解物における FBP1 発現のウェスタン ブロット分析。